



皆さんが輪になり盆踊りを楽しみました。



中：北海道テレビ放送「水曜どうでしょう」東北キャラバンに大勢の人ばかり。
右：川面に浮かぶ子どもたちの灯籠。

8月17日
絵木内川河川公園

総勢200人のお家行列が沿道を魅了 第18回戸沢氏祭 大勢の人出で賑わう

8月17日、1年ぶりに開催された戸沢氏祭。新成人の殿様一行と地元小学生、婦人会等が領民に扮し、総勢200人余りのお家行列が、真山寺を出発後、門屋城址を経由し、主会場の河川公園まで練り歩き、沿道や公園で待つ大勢の観客を魅了しました。

会場では伝統芸能の発表やステージショー、魚のつかみ捕りや盆踊りなど、楽しめる催し物が行われ、最後の花火大会では、夜空を飾る綺麗な花火に歓声が上がりました。大人から子どもまで祭りを満喫しました。

仙北市のできごとをおとどけ

ちいきのわだい



(提供 朝日新聞社)

熱く燃えた！角館高校野球部の夏



(提供 朝日新聞社)

角館高校の生徒、保護者、仙北市民や各地から駆けつけた卒業生などで満員の一塁側アルプススタンド。校歌や応援歌をスタンドに響かせ、グラウンドで戦う角館高校ナインのピンチにもチャンスにも、最後まで声援を送り続けた。

第96回全国高等学校野球選手権大会へ、秋田県代表として初出場した角館高校野球部は、大会第6日目の第4試合で、鳥取県代表の八頭高校と対戦しました。

地元の大勢の期待に応えるように、甲子園の大舞台で、懸命のプレーを私たちに見せてくれた角館高校ナイン。

試合は1対6と残念ながら敗れましたが、甲子園に記念すべき、大きな一歩を残してくれました。

甲子園に刻んだ一歩

大会開始から連日、高校球児達の熱戦が繰り広げられていた甲子園球場。大会第6日目の第4試合に出場の角館高校野球部の対戦相手は、鳥取県代表八頭高校。

当日は朝から雨が降り続き、あいにくのグラウンドコンディションでしたが、現地甲子園スタンドの大応援団や、市内でのパブリックビューイングに集まった大勢の市民が見守る中、いよいよ試合が始まりました。

先攻の角館高校は、1回に3連続安打で1点を先取。スコアボードに、甲子園での初得点「1」が記され、スタンドの応援団から大歓声があがり続きます。

試合は両校共に随所に好プレーを見せる、熱戦を展開していきますが、3回に同点、5回に逆転され、角館高校は県予選ではなかった、追いかける展開になります。中盤、終盤と食い下がりチャンスを作りましたが、一歩及ばず1対6と敗れ、甲子園での初勝利はなりません。

試合終了後、応援席から、そして市内パブリックビューイング会場から、懸命なプレーを見せてくれた角館高校ナインの健闘を称え、大きな拍手と惜しみない声援が送られました。

広報せんぼくでは次号も、角館高校の甲子園記事をお送りします。

8月15日
仙北市民会館

平成26年度仙北市民会館 新成人が誓いのことば

仙北市民会館が仙北市民会館で8月15日に開催されました。

今年の新成人は平成5年4月2日から平成6年4月1日までに生まれた267人。式に先立ち新成人有志によるアトラクションが行われ、秋田長持唄や拳囃子、正調生保内節など7曲が披露され大いに盛り上がりました。

式では、新成人の石郷岡美幸さんが司会を務め、成人者を代表し澤山大輝さんに成人証書が授与されました。また、鈴木翔斗さん、橋本翼さん、草薙祐哉さんが「自分を育ててくれた親のように、父さん母さんから産まれてきて良かった子どもに感じてもらえる



誓いの言葉を述べる（左から）草薙祐哉さん、橋本翼さん、鈴木翔斗さん。



成人証書を受け取る澤山大輝さん。



司会を務めた石郷岡美幸さん。市民会館ロビーのあちらこちらで、友達との再会を喜ぶ姿が見られました。

ような家庭を築きたい」「支えられる側から支える側に成長し、子どもたちが憧れる大人になり、仙北市がすばらしい街になるよう貢献したい」「社会人の自覚を強く持ち、若者が積極的に社会参加することが必要。甲子園に出場した後輩たちのハングリー精神・根性・精神力を見習い、地域を活性化できる若者になりたい」と誓いのことばをそれぞれ述べました。

■成人証書の保管について■
成人式当日に出席できなかった方の成人証書を生涯学習課で保管しています。9月30日までに受け取りに来てください。

受取場所・問合せ／教育委員会 生涯学習課（角館庁舎2階）
☎(43) 33803

7月27日・8月3日
仙北市民球場

第9回仙北市長杯争奪野球選手権大会 一回戦から熱戦が展開される

平成26年度第9回仙北市長杯争奪野球選手権大会が7月27日、8月3日の両日に13チームが参加して開催されました。

開会式では市長が「角館高校の甲子園初出場のお祝いと来年は市長杯が10年の節目の大会に当たり、みんなで盛り上げたい」とあいさつしました。大会は一回戦から好試合が展開され、決勝戦は、前年度優勝の今光学チームと前々年度に優勝をしている田沢湖BCチームとの対決となり、両者譲らぬ投手戦の末、ワンチャンスをものにした田沢湖BCチームが1対0で、2年ぶり3回目の優勝を遂げました。



白熱の決勝戦を制し優勝の田沢湖BCチーム。

個人賞は次のとおりです。(敬称略)
最優秀選手賞 佐藤平(田沢湖BC)
優秀選手賞 門脇豊(今光学)
敢闘賞 加藤貴大(田沢湖BC)

8月6日
仙北市

郷土を学ぶ心を育む

「ふるさと仙北学」発行



ふるさと仙北の風土、歴史などの資料の集大成。

仙北市教育委員会の北浦教育文化研究所が中心となって、ふるさとの豊かな自然や文化、歴史、偉人、伝統工芸などの資料を集大成した冊子「ふるさと仙北学」が完成しました。

この冊子は、児童生徒のふるさとを愛する心を育て、ふるさとへの誇りと自信を持たせるための教材とするもので、百数十ページに渡ります。今後、学習や行事、特別活動など、様々な場面で活用されることとなります。

8月15日
角館地区

伝統芸能 ささらの舞

3体の獅子が勇壮に舞う

8月15日、ささら舞が昼の部、夜の部の2回にわたり、角館地区で行われました。

角館の観光行事実行委員会の主催。昼の部は角館榊細工伝承館で広久内ささら、白岩雲巖寺で白若ささらと室野口ささらが、夜の部では角館中心市街地活性化支援センター(かつらぎ)で広久内ささらと白若ささらがそれぞれ勇壮な舞を披露しました。



ささらは、佐竹家が常陸から秋田に国替えになった際に伝わり、400年以上の歴史を持つといわれています。現在は盆行事の一つとして祖霊や新仏供養、五穀豊穡を祈りスラ(舞うこと)をいいます。

8月19日
角館小学校

大村少年合唱団と角館小ドリハモ音楽で交流深める

戊辰戦争(1868年)をきっかけとした長崎県大村市との姉妹都市提携35周年を記念して、大村少年合唱団が仙北市を訪れ、角館小学校『ドリハモ二』と音楽を通じた交流会を行いました。

角館小学校で行われたこの交流会では、初めにドリハモ二が迫力ある演奏を披露し歓迎した後、小学5年生から高校3年生までの大村少年合唱団32人が美しい歌声を会場いっぱいに響かせました。

西大村中学校2年の原富文華さんは「35周年と記念すべき年にここで公演



美しい歌声を聞かせてくれた大村少年合唱団。

できたことはいっぱい。この機会に歴史的背景を学ぶこともできた。これからもこの友好を願っていききたい」と話しました。

8月7日~9日
仙北市

秋田発・子どもふるさと交流推進事業 女川・石巻の小学生が交流を深める

8月7日から9日までの3日間、宮城県的女川町や石巻市などの小学生21人が仙北市を訪れ市内農家民宿に滞在し、農山村体験、自然体験を通じて交流を深めました。



みんなでピザ作りづくりに挑戦。



カヌー体験を楽しむ子どもたち。県事業「秋田発・子どもふるさと交流推進事業」を活用し、仙北市農山村体験推進協議会が実施しています。

8月8日
たざわこ芸術村

田沢湖・角館観光振興フォーラム 新たな観光戦略の可能性を探る

8月8日、田沢湖・角館観光振興フォーラムがたざわこ芸術村で開催されました。「旅の楽しみ、食と観光の深い関係」と題し、佐竹敬久知事が、近年の日本の観光に見られる変化や各観光地の観光戦略などを自身の体験を交えながら講演しました。終了後には「御狩場焼の夕べ」が開かれ、飲食店と酒造メーカーによる御狩場焼と御狩場酒、御狩場ビールの試食・試飲会を行いました。



「秋田の食のイメージは高いレベルにあると認知されている。この良さを観光に活かす工夫が必要」と話す佐竹知事。

8月20日
市役所田沢湖庁舎前

第44回生保内節盆踊り 生保内節に踊りの輪が広がる

8月20日、田沢湖庁舎前駐車場を会場として、第44回生保内節盆踊りが開催されました。当日は天気に恵まれ楽しんでいましたが、大勢の踊り手や子どもたちが参加し、踊りの輪を作りました。盆踊りの合間には、おやま囃子青年部によるお囃子と手踊り、石神稲穂太鼓、だしのこ園職員による踊りや生保内田植え踊り、地元出身の民謡歌手浅野沙樹さんの民謡ショーなど多彩なアトラクションも行われ、会場は賑わいをみせました。



演奏に合わせて踊り手や子どもたちが会場内を周るようにして踊りました。

8月16日
桜並木駐車場

角館の灯籠流し開催 ほのかな明かりが桧木内川に浮かぶ

8月16日、桜並木駐車場で灯籠流しが行われました。

一昨年、角館まちづくり地域運営体などが、50年ぶりにお盆行事として復活させ、3回目の開催となります。

式典では祭壇に飾られた灯籠に明かりが灯る中で、白若ささらが奉納されたほか、読経が響く中、参加者が焼香をあげました。その後、120個の灯籠が桧木内川に運び込まれ、次々と川に流されると、会場は暫し荘厳な雰囲気になりました。



灯籠が灯る中で厳かに式典が行われた。